

■田中逸平 父から禊教修法受け、遍歴のちイスラーム教徒になるも、念仏修行から、最後は禊教に戻る万教帰一の生涯。

たなか いっぺい

新体詩抄・・1882 = 東京府下小金井で、田中定次郎の四子に生まれる。

父から神道禊教の修法を受けて生涯の精神的ルーツとなり、

帝国憲法発布1889 = 7歳：

大津事件・・1891 = 9歳：

日清戦争始・1894 = 12歳：

白馬会・・・1896 = 14歳： この年急逝した荒尾精の「対清意見」に共感し、
荒尾やその影響を受けた頭山滿ら興亜論の先駆者を尊敬するようになり、
子規句歌革新1898 = 16歳： この年、_(東亜同文会)が設立されたことにも刺激され、

バア/国産化・1900 = 18歳：_(拓殖大学の前身)台湾協会学校に第1期生として入学、中国語とともに、?谷時敏から儒学を学び、

教科書疑獄・1902 = 20歳：_服部宇之吉に従って、大陸へ渡り北京で遊学、満州を巡遊、

日露戦争始・1904 = 22歳：_日露戦争が勃発すると、志願して従軍通訳官となって活躍し、
日露戦争終・1905 = 23歳：_戦後、勲六等単光旭日章を授けられる。そのまま満州の地下資源調査団に従い、

アラビヤ 創刊・1908 = 26歳：_調査終了後も帰国せずに、学校を中退。山東省都済南に居住して、中国思想の研究をするうち、
伊藤博文暗殺1909 = 27歳：この年、_興亜論者により、日本でのイスラーム布教とアジアの防衛を目的に{亜細亜義会}が設立され、
韓国併合・・1910 = 28歳：この年、_(東亜同文会)メンバーが来日したムスリムと交流し、
大逆事件判決1911 = 29歳：この年からの_日本最初のメッカ巡礼者山岡光太郎に近い大原武慶のイスラーム連載記事などに影響され、
明治天皇没・1912 = 30歳：
自らのルーツ禊教と共鳴するイスラームに傾斜して行き、中国の道院・世界紅卍字会にも注目するうち、
それと連繋する大本教にも惹かれるようになる。

ロシア革命・1917 = 35歳：中西正樹と{済南日報社}を興す。

本格政党内閣1918 = 36歳：

大暴落・・・1920 = 38歳：この年から、_(日本及日本人)に寄稿しはじめ、南方熊楠がそれらに論及すると、

原敬首相暗殺1921 = 39歳：

関東大震災・1923 = 41歳：_和歌山県の田辺に西欧の浅薄さを説く熊楠を訪ねて強い印象を受け、「南方先生を訪ひて」を発表。
護憲三派圧勝1924 = 42歳：*山東省済南のイスラーム寺院清真南大寺で正式に受戒した上、メッカへの大巡礼を果たして、帰国。
治安維持法・1925 = 43歳：_大本教を訪問。現地レポートを「白雲遊記」として刊行し、日本人に初めてイスラームの世界を紹介、その
理解に貢献する。この間、国内聖地を巡礼して、念仏修行にも傾倒して行き、
円本時代始・1926 = 44歳：_千葉県長生郡の薬樹院大圓寺で生活を始め、その縁で夷隅郡真福寺で念仏修行を開始。故郷武蔵野の天神
社で大祓の式を受ける。大塩平八郎没後90年に、大塩家墓所に行き豊を祭る。大東文化学院講師に就任、
日本外史・・1827 = 45歳：_自ら別時高声念仏及観息法修行を主催。
以後、東洋思想にもとづく道義の重要性を説く。
満州事変・・1931 = 49歳：*五教(儒・仏・道・キリスト・イスラーム)を皇道に会通する目標を掲げ{五一会}を結成。
これらを経て、ルーツたる禊教への信仰を深め、
国際連盟脱退1933 = 51歳：_連載「高天原雑記」で独自の神道論を展開、
帝人疑獄事件1934 = 52歳：*病をおして、2回目のメッカ巡礼を果たすが、帰国すると、重病となり、没した。葬儀は、イブラヒームに
よって、日本人初のイスラーム式で行われた。

「イスラーム巡礼白雲遊記」、